



KEIICHIRO SHIBUYA
ANDROID OPERA MIRROR
- *Deconstruction and Rebirth* - 解体と再生 -



2025.11.05 WED / OPEN 18:00 START 19:00
SUNTORY HALL, TOKYO

KEIICHIRO SHIBUYA / ANDROID MARIA
KOYASAN BUDDHIST CHANT / ANDROID OPERA TOKYO ORCHESTRA
SHINTARO IMAI / JUSTINE EMARD / YUMA KISHI / TAKASHI IkeGAMI / ZAK

プレイガイド：チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード] 308481
チケット金額：SS席 20,000円 S席 12,000円 A席 8,000円 B席 5,000円 C席 3,000円（全て税込）
主催：メルコグループ／制作：ATAK／問合せ先：info@atak.jp



KEIICHIRO SHIBUYA

ANDROID OPERA MIRROR

— Deconstruction and Rebirth — 解体と再生 —



渋谷慶一郎 アンドロイド・オペラ『MIRROR』
— Deconstruction and Rebirth — 解体と再生 —

日時：2025 年 11 月 5 日（水） 開場 18:00 / 開演 19:00
会場：サントリーホール 大ホール（東京都港区赤坂 1-13-1）

プレイガイド：チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード] 308481
SS 席 20,000 円、S 席 12,000 円、A 席 8,000 円、
B 席 5,000 円、C 席 3,000 円（全席指定・全て税込）

出演者・参加アーティスト
コンセプト、作曲、ピアノ、エレクトロニクス：渋谷慶一郎
ヴォーカル：アンドロイドマリア
高野山声明（藤原栄善、山本泰弘、柏原大弘、谷朋信）
ANDROID OPERA TOKYO ORCHESTRA（コンサートマスター：成田達輝）
アンドロイドプログラミング：今井慎太郎
映像：ジュスティース・エマール（Justine Emard）
AI プログラミング：岸裕真
AI プログラミングアドバイザー：池上高志
音響：ZAK

アンドロイド開発
制御システム：松村礼央
機構設計：島谷直志
フェイス製作：右田淳

主催：メルコグループ 制作：ATAK
問合せ先：info@atak.jp

アンドロイド・オペラ『MIRROR』がついにサントリーホールで開催

音楽家・渋谷慶一郎が作曲・プロデュースを行う、アンドロイド・オペラ『MIRROR』は AI を搭載したアンドロイドが歌い、60 名超のオーケストラ、ピアノ、電子音、映像、そして 1200 年の歴史を持つ仏教音楽の声明が融合する、革新的なオペラ作品。これまでにドバイ万博やパリ・シャトレ座で上演、昨年の東京公演はチケットが即完売するなど国内外で注目を集めた本作がついにサントリーホールで開催されます。

最新人型ロボット「アンドロイドマリア」がステージで初演奏

今年 6 月に初披露されたアンドロイドマリアが初めてステージに立ちます。AI によるコンセプトデザインと会話プログラムを手がけたのはアーティスト・岸裕真。また、近年のアンドロイド・オペラでプログラミングを担当するコンピュータ音楽家・今井慎太郎、そして東京大学教授・池上高志といった長年のコラボレーターに加えて多くのエンジニア陣の協力のもと製作されます。

「Deconstruction and Rebirth — 解体と再生 —」

「Deconstruction and Rebirth—解体と再生—」と銘打ち、新作の上演を含むほか、これまでの作品の脱構築と再構成、そして生と死そのものの境界を問い直すことで、解体と再生、人間とアンドロイドの間に新しい希望や可能性を模索する試みとなっています。新しくアレンジされた本作を、ヴァイオリニスト・成田達輝が率いる若手気鋭の凄腕オーケストラがアンドロイド、電子音と鮮烈に協奏するのも大きな見所です。

会場ホール全体を使った演出、鑑賞体験の創出

今回の公演では、ステージ上にとどまらず、客席側にも演奏者や声明による歌唱が配置され、空間そのものが楽器となるような、ホール全体を使った立体的な音楽体験が展開されます。音響を手がけるのは、日本を代表するエンジニア／アーティストの ZAK。サントリーホール独自の空間音響を最大限に活かしながら緻密に設計された音響ミックスは大きな見所のひとつです。また、ステージ上部には大型スクリーンを設置予定。映像演出は、大阪・関西万博フランス館のアーティストティックディレクターを務めたビジュアルアーティストのジュスティース・エマールが担当します。

渋谷慶一郎

音楽家。先鋭的な電子音楽からピアノソロ、オペラ、映画音楽、サウンドインсталレーションまで幅広く手掛け、東京とパリを拠点に活動。2012 年、人間不在のボーカロイド・オペラ『THE END』を発表しパリ・シャトレ座を皮切りに世界巡回。2018 年にはアンドロイド・オペラ『Scary Beauty』を日本、欧州、中東で上演。2021 年は新国立劇場の委嘱新作にてオペラ作品『Super Angels』を作曲、東京フィルハーモニー交響楽団と共演。2022 年以降はアンドロイド・オペラ『MIRROR』をドバイ万博やシャトレ座で上演、2024 年東京凱旋公演を実施。2025 年にはパリ・グランパレでソロコンサート『MIRROR Ghost』を発表。生と死、テクノロジーと人間の境界を作品を通して問いかけている。

